

令和5年度神奈川県立新羽高等学校不祥事ゼロプログラム検証結果

新羽高等学校は、「教育委員会不祥事ゼロプログラム作成方針」に基づき、事故・不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり「不祥事ゼロプログラム」を策定・実施し、達成状況について検証を行った。

1 実施責任者

不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長・教頭がこれを補佐する。

2 取組課題・目標・実施結果・達成状況

取組課題	目 標	実施結果と目標の達成状況
1 法令遵守意識の向上 (法令の遵守、服務規律の徹底)	法令違反、服務規律違反を行っている職員ゼロを目標とする。	①職員会議等において、法令遵守、服務規律について確認し、それに則り行動するよう指導した。 ②互いの声かけや助け合いを習慣化し、学年・グループ等のリーダーと連携を図り小さな変化を見逃さないようにした。 ③職員として、公務内外において、常に高い倫理感を持ち、自身の行動を律するよう指導した。 ④不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「服務規律の遵守・コンプライアンス意識の醸成」について研修を行った。
2 職場のハラスメント (パワハラ、セクハラ、マタハラ等)の防止	パワハラ、セクハラ、マタハラ等を行っている職員ゼロを目標とする。	①日ごろの発言や行動に注意し、継続的に職員に注意喚起を行った。 ②職場内のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）を防止するため、風通しの良い職場環境を整備した。 ③「ハラスメントのない職場づくりのために」を用いた研修を行った。 ④不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「わいせつ・セクハラ行為の防止」「職場のハラスメントの防止」についての研修を行った。
3 児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を行う職員ゼロを目標とする。	①生徒の心を傷つけるような言動がないよう、日常の指導に細心の注意を払い、生徒のセクハラに対する意識の啓発を行った。また、万一セクハラを受けた時の対処法と校内の相談しやすい環境を整えた。 ②教科準備室等の適切な利用を徹底した。 ③生徒に個別指導を行う際は複数で指導に当たり、密室での指導を避ける等配慮した。 ④生徒とのSNS等の利用禁止を徹底し、生徒・保護者へのスマートフォン・携帯電話等による、電子メールの使用については、公務アドレスやGoogle Classroomに限定した。 ⑤生徒及び教職員へアンケートを実施した。

4	体罰、不適切な指導の防止	体罰、不適切な指導を行っている職員ゼロを目標とする。	<p>①生徒への対応は、複数対応を徹底し、組織的なサポート体制を構築した。</p> <p>②教科準備室等を適切な活用した。</p> <p>③職場において、相手の人権や人格を傷つける態度や発言を防止するため、互いに指摘しやすい環境を整えた。</p> <p>④不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「体罰、不適切な指導の防止」についての研修を行う。</p> <p>⑤生徒及び教職員へアンケートを実施した。</p>
5	定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱い、入学者選抜に係る事故防止	定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱い、入学者選抜に係る事故ゼロを目標とする。	<p>①マニュアル等を厳守して適切な事務処理の徹底し、職員同士の相互チェック機能を強化した。</p> <p>②採点や入力等の点検体制を強化し、採点・入力ミスを防止した。</p> <p>③適正な成績処理を行い、通知表・調査書など書類発行までの流れを確立した。</p> <p>④不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「定期試験・成績処理の事故防止」「入学者選抜の事故防止」についての研修を行った。</p>
6	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策に係る事故ゼロを目標とする。	<p>①日常的に様々な個人情報を扱っていることを認識し、ルールに則り適切な管理を徹底した。</p> <p>②業務上やむを得ず個人情報を持ち出す際は、事前・事後に管理職の許可と確認を行った。</p> <p>③携帯電話やスマートフォン等の番号やアドレスを取得する場合は、校長承諾の上、保護者の了解をとり、適切な管理と使用後の廃棄等確実にを行った。</p> <p>④答案等の誤廃棄を防ぐため、試験開始時から生徒に答案を返却するまでの期間は、シュレッダー使用を禁止した。</p> <p>⑤行政文書は、保存期間の目安に基づいて保存し、保存期間が終了した文書は適切に廃棄した。</p> <p>⑥「個人情報の適切な取扱い、情報セキュリティ」についての研修を行った。</p>
7	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故、酒酔い・酒気帯び運転、交通法規違反を行っている職員ゼロを目標とする。	<p>①交通事故に係る職員啓発資料をもとに注意喚起を図り、法規を遵守することを全職員に徹底した。</p> <p>②日ごろから軽微な違反も起こさないよう、職員一人ひとりの意識向上を図った。</p> <p>③事故が起きた場合は、迅速な対応・報告を行った。</p> <p>④不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「飲酒運転の根絶」についての研修を行った。</p>

8	業務執行体制の確保等 (情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	教職員が情報共有し、相互チェック体制・業務協力体制をとり、円滑な業務執行ができることを目標とする。	①日々のコミュニケーションや、グループ会議・学年会議・教科会議を通して、情報共有し、相互チェック体制・業務協力体制を構築した。 ②外部への回答や文書送付等の際は、複数による点検を行い、提出期限に余裕を持って計画的に業務を遂行するとともに起案・決裁を実施した。 ③事務処理に係る仕組を改善し、休暇や旅行等の庶務事務システムへの入力は、漏れやミスのないように行った。
9	財務事務等の適正執行	財務事務等に係る事故ゼロを目標とする。	①全職員に私費会計基準を周知し、適正に処理した。 ②私費会計担当者を対象に、会計処理が適正になされているか確認した。 ③不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「適切な私費会計の取扱い」について研修した。 ④私費に係る財務事務調査結果について、所属全体に報告し改善した。

3 学校長の意見

令和5年度新羽高等学校不祥事ゼロプログラムの行動計画に基づき、不祥事防止会議を位置付け、不祥事防止研修会等を効果的に実施するとともに、朝の打合せ等において、教育長通知や関係資料を周知したりするなど、職員への注意喚起を行い、事故・不祥事の未然防止に取り組んできた。

すべての取組課題ので、ほぼ事故防止を達成することができた。次年度も、不祥事ゼロプログラムの行動計画に即して、不祥事防止会議や各種研修会を実施するとともに、職員全体のコミュニケーションを密に図り、風通しのよい職場環境を構築し、事故・不祥事を出さない職場づくりに学校全体で取り組む所存である。

4 令和6年度に取り組むべき課題

次の5項目を重点課題として取り組む。

- (1) 職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止
- (2) 体罰、不適切な指導の防止
- (3) 定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱い、入学者選抜に係る事故防止
- (4) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策
- (5) 財務事務等の適正執行